

Ⅱ. 調査の結果

第1章 日本大学学生の基本特性

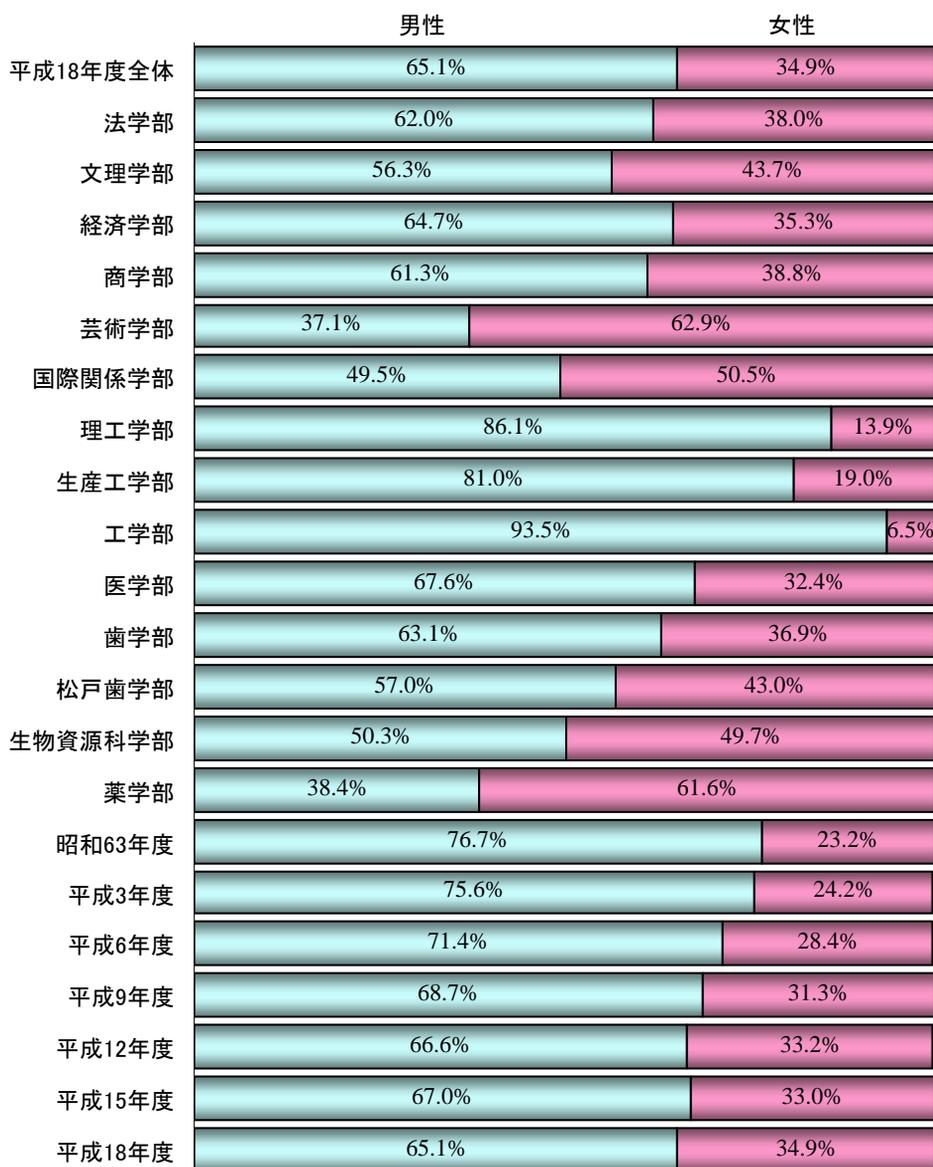
1.性別

女子学生の比率は年々上昇。芸術学部、薬学部、国際関係学部では過半数。
特に法学部と経済学部では増加傾向が著しい。

本大学の14学部全体（昼間部のみ）の女子学生比率は34.9%でした。実際の女子学生比率は29.4%（平成18年5月現在の学部昼間在籍者）ですから、女子学生の方が調査協力がやや高かったこととなりますが、分析上支障のない範囲の偏りだと考えられます。

学部別に見ると男女比は大きく異なり、女子学生比率は芸術学部で最も高く62.9%、工学部で最も低く6.5%となっています。調査結果を学部別に見るときには、男女比の差異が大きいことを念頭に置く必要があるといえます。

第1回調査が行われた昭和63年（18年前）と比べると女性比率は11.7ポイント増加しています。法学部と経済学部では25ポイント以上と増加が顕著に見られます。

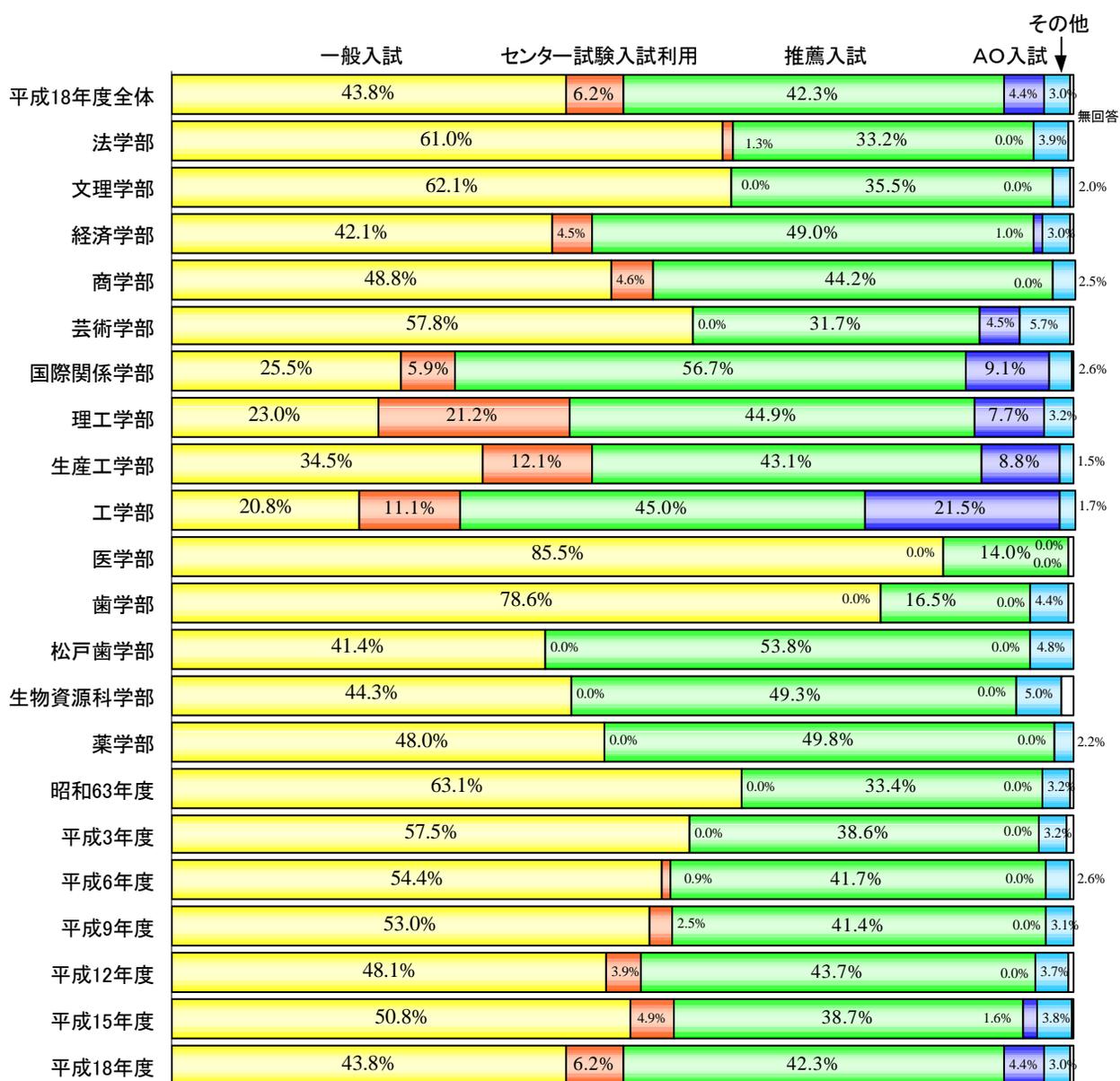


2.入学状況

一般入試と推薦入試による入学者がほぼ同率。学部により差異が大きい。センター入試利用、AO入試が増加し、一般入試入学者比率は減少傾向。

本大学への入学状況を見ると、一般入試が43.8%、推薦入試が42.3%とほぼ同率となっています。平成4年度からセンター入試利用、平成13年度からAO入試による入学制度が採用され、現在半数の学部で実施されていますが、本年度調査ではそれぞれ5%前後の比率となっています。医学部・歯学部では一般入試入学が8割を占めていますが、松戸歯学部は推薦入試入学が半数強となっています。また、理工学部ではセンター試験入試利用者、工学部ではAO入試入学者比率がそれぞれ約20%となっています。

経年変化を見ると、一般入試による入学者比率が減少傾向にあり、入学形態の多様化が進んでいることがわかります。



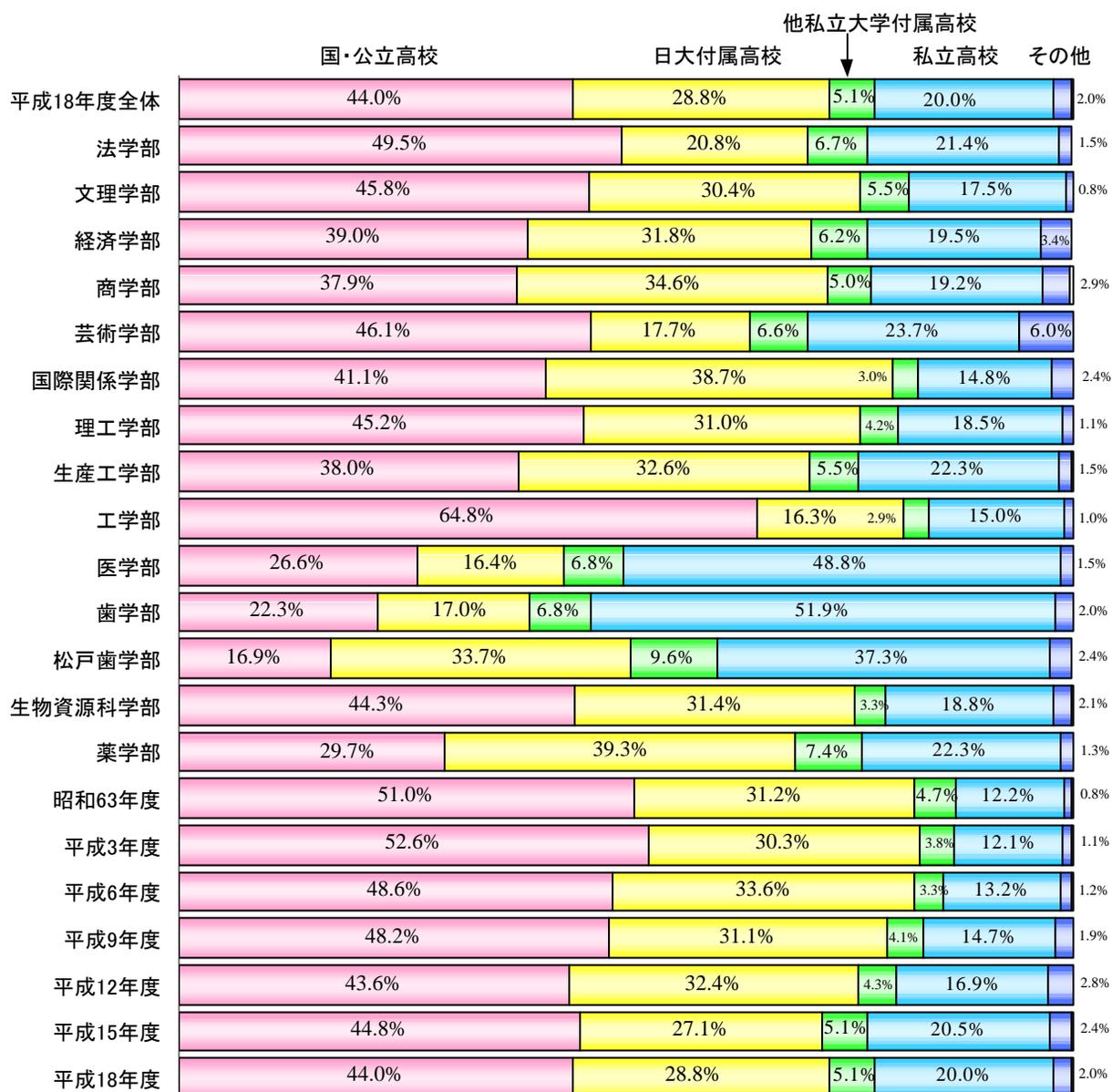
3.出身高校

国・公立出身が44.0%。次いで日大付属高校出身が28.8%、私立高校出身が20.0%。
工学部は国・公立出身がほぼ3分の2、医学部・歯学部のほぼ半数は私立高校出身。

本学学生の出身高校を見ると、日大付属高校は28.8%、他私立付属高校は5.1%、その他の私立高校が20.0%であり、最も比率が高いのは国・公立高校出身で44.0%となっています。

工学部は国・公立高校出身が64.8%と過半数を占めています。また、法学部もほぼ半数が国・公立高校出身となっています。一方、歯学部と医学部では、私立高校（付属以外）出身がほぼ半数を占めています。薬学部は、日大付属出身が約4割を占めています。

経年変化を見ると、国・公立高校出身は若干減少傾向がみられましたが、平成12年度からはほぼ横這いとなっています。私立高校出身は増加傾向が続いていましたが、平成15年度に比べわずかに減少し頭打ちとなっています。



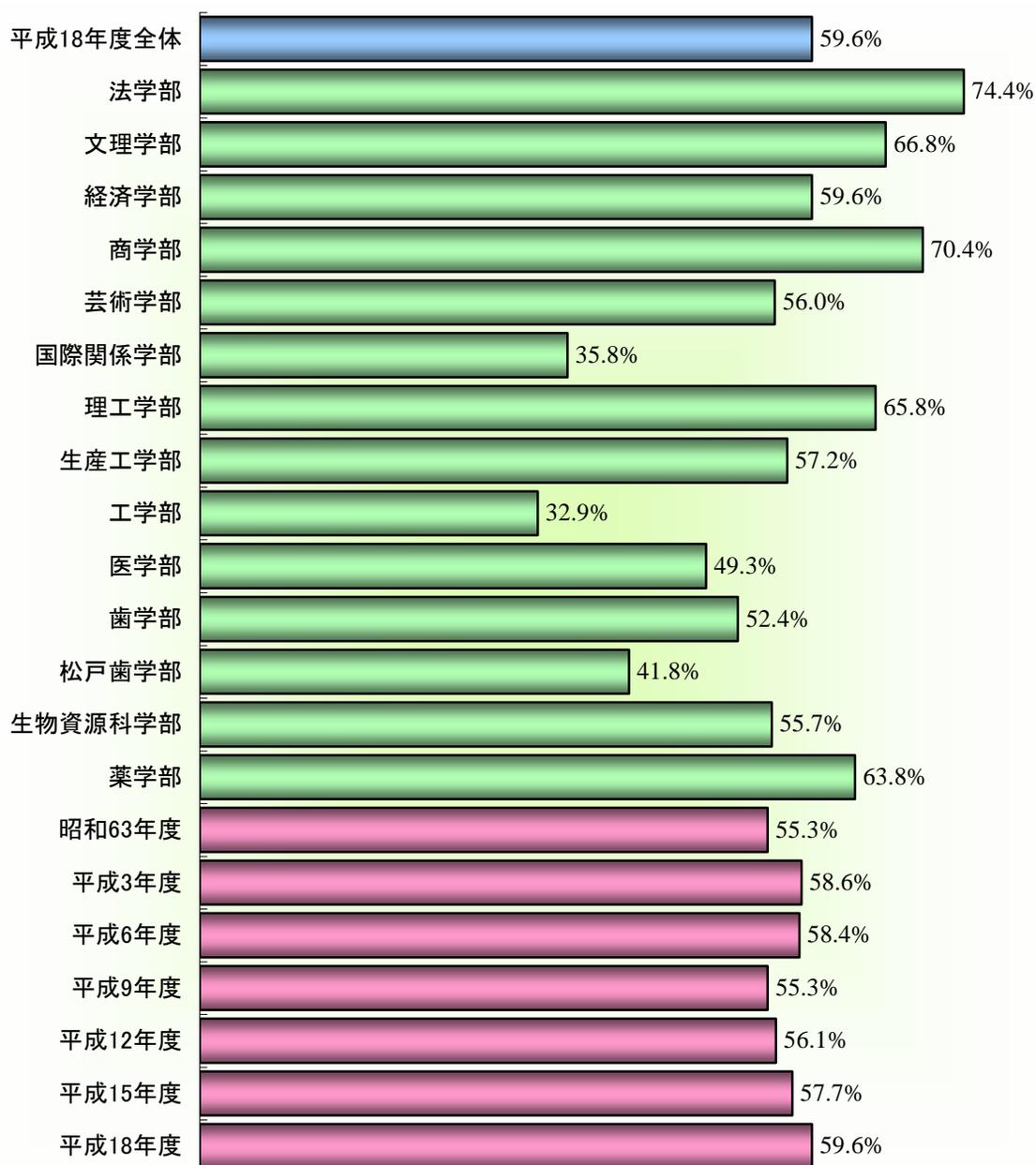
4. 自宅通学者比率

自宅通学者比率は59.6%。首都圏外に所在する学部では3分の1。
景気低迷期への移行に伴い、平成9年度調査から増加傾向。

現在の住居形態についての回答を見ると、自宅が59.6%で最も比率が高く、次いでアパート・マンションが34.2%となっています。食事付きの下宿・貸間・学生ハイツは3.2%とごく少数派です。自宅通学者に焦点をあてて見ると、学生の3分の2が2年時に大宮（さいたま市）から三崎町（千代田区）へキャンパスを移動する法学部が74.4%と最も高く、キャンパスが福島県のテクノポリス郡山にある工学部と静岡県三島市にある国際関係学部でそれぞれ約3分の1と低くなっています。

自宅通学者比率の経年変化を見ると、平成9年度の55.3%から毎回増加傾向にあります。景気の低迷期と重なることから推測すると、子供を自宅通学させることによって少しでも生活費を抑えたいといった家庭の経済事情を反映しているのかもしれませんが。

自宅通学者比率



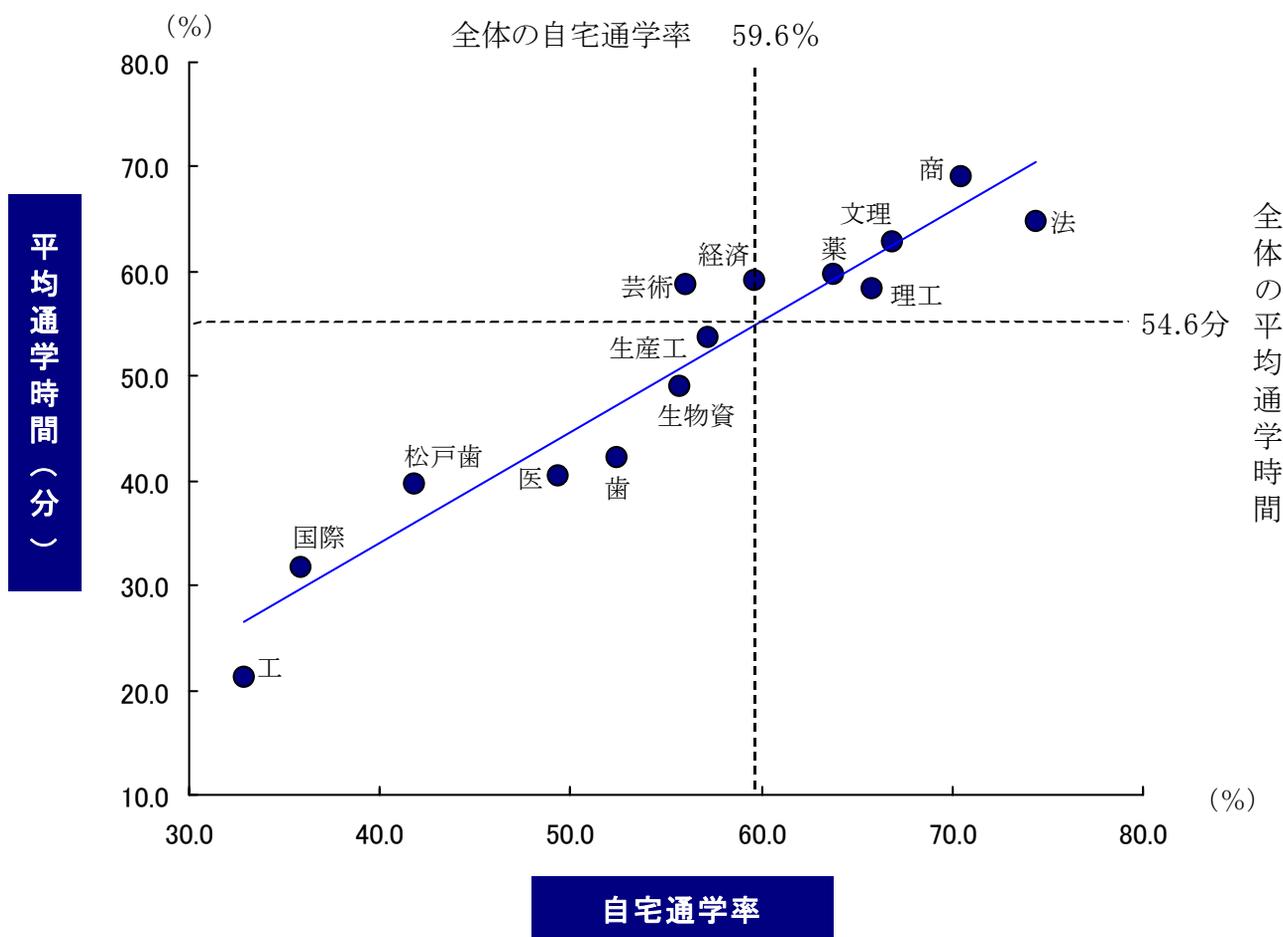
5.通学時間

通学時間の平均は54.6分。商学部の69.1分から工学部の21.3分まで学部により差。平均通学時間は、自宅通学率が高い学部ほど長く、相関関係が非常に強い。

通学時間は「15分以内」が22.3%、「16～30分」が12.5%で30分以内が34.8%、「31～60分」が21.7%で1時間以内が56.5%となっています。通学時間が1時間半を超える学生も2割います。選択肢の中間値（180分以上は200分）をとって加重平均値を求めると、本学学生の平均通学時間は54.6分となります。

平均通学時間を見ると、学部によりバラつきが大きく、商学部（69.1分）法学部（64.9分）などでは1時間を越えています。工学部では21.3分、国際関係学部では31.7分と短くなっています。比較的キャンパスに近いところに住んでいるアパート・マンション居住者に比べると自宅通学者はより遠方から通学していると考えられます。そこで、学部ごとに、平均通学時間と自宅通学率の関係を下図に示してみました。平均通学時間は自宅通学率が高い学部ほど長いという傾向が顕著に見られました。両者の相関係数は0.956と非常に高い数値となっています。

学部別、平均通学時間と自宅通学率の相関図



※ 通学時間は加重平均値